

付属資料6 土質試験結果一覧表データ

1 土質試験結果一覧表データの記入項目

土質試験結果一覧表データの記入項目一覧を次に示す。

項目名称		記号	単位	形式		
基礎情報	公開フラグ	コード	-	-	コード	
		備考	-	-	文字	
標題情報	調査名		-	-	文字	
	整理年月日		-	-	整数	
	整理担当者		-	-	文字	
	調査業者名		-	-	文字	
	発注機関名称		-	-	文字	
	位置情報	地点名		-	-	文字
		フォルダ名		-	-	文字
		緯度	経度_度	-	-	整数
			経度_分	-	-	整数
			経度_秒	-	-	実数
		緯度	緯度_度	-	-	整数
			緯度_分	-	-	整数
			緯度_秒	-	-	実数
		経緯度取得方法	コード	-	-	コード
			説明			文字
		経緯度読取精度		-	-	コード
		測地系		-	-	コード
		標高		-	TP. m	実数
	ローカル座標	X座標定義	-	-	文字	
X座標		-	-	文字		
試験情報	試料情報	試料番号		-	-	文字
		試料連番		-	-	文字
		試料採取情報		-	-	コード
		上端深度		-	GL. -m	実数
		下端深度		-	GL. -m	実数
		試料の状態		-	-	コード
		一般	湿潤密度		-	g/cm ³
	乾燥密度		-	g/cm ³	実数	
	土粒子の密度		-	g/cm ³	実数	
	自然含水比		-	%	実数	
	間隙比		-	-	実数	
	飽和度		-	%	実数	
	粒度	石分		-	%	実数
		礫分		-	%	実数
		砂分		-	%	実数
		シルト分		-	%	実数
		粘土分		-	%	実数
		最大粒径		-	mm	実数

項目名称		記号	単位	形式	
	均等係数	U_c	-	実数	
		50%粒径	D50	mm	実数
		10%粒径	D10	mm	実数
	コンシステン	液性限界	w_L	%	実数
項目名称		記号	単位	形式	
シー特性	塑性限界	w_p	%	実数	
	塑性指数	I_p	-	実数	
分類	地盤材料の分類名	-	-	文字	
	分類記号	-	-	文字	
圧密	試験方法	-	-	コード	
		-	-	文字	
	圧縮指数	C_c	-	実数	
	圧密降伏応力	P_c	kN/m ²	実数	
	体積圧縮係数	C_v	m ² /kN	実数	
	圧密係数	m_v	c m ² /d	整数	
	圧力範囲	-	kN/m ²	文字	
	一軸圧縮	一軸圧縮強さ	q_u	kN/m ²	実数
破壊ひずみ		ϵ_f	%	実数	
せん断	試験条件	-	-	コード	
		-	-	文字	
	せん断強さ(全応力)	c	kN/m ²	実数	
	せん断抵抗角(全応力)	ϕ	度	実数	
	せん断強さ(有効応力)	c'	kN/m ²	実数	
せん断抵抗角(有効応力)	ϕ'	度	実数		
締固め	試験方法	-	-	文字	
	最大乾燥密度	ρ_{dmax}	g/cm ³	実数	
	最適含水比	w_{opt}	%	実数	
CBR	試験方法	-	-	文字	
	CBR 試験	突固め回数	-	回/層	整数
		膨張比	r_e	-	実数
		貫入試験後含水比	w_2	-	実数
		平均 CBR	-	%	実数
	修正 CBR 試験	締固め度	-	%	整数
修正 CBR		-	%	実数	
コーン指数	突固め回数	-	回/層	整数	
	コーン指数	q_c	kN/m ²	実数	
透水	試験方法	-	-	コード	
		-	-	文字	
	透水係数	k	m/s	実数	
その他	項目名	-	-	文字	
	試験値	-	-	文字	
コメント	特記事項	-	-	文字	

2 土質試験結果一覧表データの記入方法

土質試験結果一覧表データの記入方法を次に示す。

(1) 公開フラグ

外部公開の可否を表 2-1 から選択し、コードで記入する。外部公開負荷の場合は、その理由を備考欄に必ず記入する。

例：公開可の場合 →

1

例：公開不可の場合 →

0 ルート選定段階のため

表 2-1 公開可否コード

コード	方 法
0	公開不可
1	公開可

(2) 調査名(文字)

調査名を記入する。記入に当たっては、業務管理ファイルにおける「業務名称」、工事管理ファイルの「工事名称」と一致させる。

例：〇〇幹線用水路地質調査業務 →

〇〇幹線用水路地質調査業務

(3) 整理年月日(整数)

土質試験結果一覧表データを整理した年月日を記入する。西暦で 2000 年 5 月 28 日の場合、2000-05-28 のように記入する。試験開始日と終了日とが同一年月日の場合にも、終了日を省略せずに開始年月日と同一データを記入する。

例：西暦 2000 年 5 月 28 日 →

2000-05-28

(4) 整理担当者(文字)

整理担当者の氏名を記入する。複数名を記入する場合には、「, (カンマ)」区切りとする。

例：日本太郎 →

日本太郎

(5) 調査業者名(文字)

調査業者の名称を記入する。

例：調査会社名 株式会社〇〇コンサルタンツ →

株式会社〇〇コンサルタンツ

(6) 発注機関名称(文字)

発注機関の名称を正確に記入する。〇〇農政、などの省略は行わない。

例：〇〇農政局〇〇〇〇〇〇事業所 →

〇〇農政局〇〇〇〇〇〇事業所

(7) 地点名(文字)

試料採取を行ったボーリング名、またはサイト名を記入する。「土質試験及び地盤調査管理ファイル」に記入する「地点名」と名称を一致させる。

また、当該調査で実施したボーリングについては、「ボーリング交換用データ A 様式: 標題情報」のボーリング名と名称を一致させる。

例: B-1 →

B-1

(8) フォルダ名(文字)

電子データシート、データシート交換用データを保存したフォルダ名を記入する。

例: BRG0001 →

BRG0001

例: SIT0002 →

SIT0002

(9) 経度・緯度(整数・実数)

試料採取地点の経度・緯度を記入する。ボーリング孔から試料採取を行った場合は、ボーリング孔口の経度・緯度を、それ以外の場合(サイトの場合)は、試料採取箇所の経度・緯度を記入する。サイトの場合で、対象範囲が広範囲に渡る場合は、代表位置の経度・緯度を記入する。

当該調査で実施したボーリングについては、「ボーリング交換用データ A 様式: 標題情報」の経度・緯度と値を一致させる。

例: 経度 135 度 49 分 58.2 秒の場合 →

1	3	5	4	9	5	8	.	2	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

例: 緯度 34 度 59 分 53.2345 秒の場合 →

3	4	5	9	5	3	.	2	3	4	5
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(10) 経緯度取得方法(コード)

経度・緯度の取得方法を、表 2-2 から選択し、コードで記入する。なお、取得方法に関する補足説明を必要に応じて記入する。

例: 測量により経緯度を取得した場合 →

0	1	許容範囲 30"
---	---	----------

例: 経度・緯度を地形図で読み取って取得した場合 →

0	2	1/1,000 地形図を 0.1mm 単位で読み取り
---	---	----------------------------

例: ディファレンシャル GPS(仮想基準点方式)の GPS システムで経緯度を取得した場合

→

0	3	ディファレンシャル GPS(仮想基準点方式)
---	---	------------------------

表 2-2 経度・緯度取得方法コード

コード	方 法
01	測量(GPS 測量含む)
02	地形図読み取り
03	単独測位 GPS システム
09	その他の方法・不明

注) コード「01」の GPS 測量は公共測量作業規程に基づき実施した場合。
市販の単独 GPS システムを用いた場合、コード「03」を記入する。

(11) 経緯度読取精度(コード)

経度・緯度の取得方法を、表 2-3 から選択し、コードで記入する。

なお、取得方法で「03:単独測位 GPS システム」を選択した場合、読み取り精度は必ず「0:整数部まで」を記入する。

例:秒の精度が 1/10 秒までの場合 →

1

表 2-3 経緯度の読み取り精度コード表

入力値 (コード)	秒の精度
0	整数部まで
1	1/10 秒(約 3m)まで (小数部 1 桁)
2	1/100 秒(約 30cm)まで (小数部 2 桁)
3	1/1,000 秒(約 3cm)まで (小数部 3 桁)
4	1/10,000 秒(約 3mm)まで (小数部 4 桁)

(12) 測地系(コード)

測地系を表 2-4 から選択し、コードで記入する。

例:世界測地系(JGD2011) →

0 2

表 2-4 測地系コード

コード	測地系
00	日本測地系
01	世界測地系 (JGD2000)
02	世界測地系 (JGD2011)

(13) 標高(実数)

ボーリングの場合は、孔口標高を記入する。サイトの場合は、代表位置の標高を記入する。
標高値については T.P. (トウキョウペール) 表記とする。

また、当該調査で実施したボーリングについては、「ボーリング交換用データ A 様式:標題情報」の標高と値を一致させる。

例:T. P. +0.23m →

			0	.	2	3
--	--	--	---	---	---	---

(14) ローカル座標(文字)

事業単位・施工単位での独自の座標を使用する場合、ローカル座標の座標定義、座標値を記入する。座標定義は任意に設定可能であり、必要な項目分だけ繰返し記入を行う。

例: X=3000.000, Y=4000.000, DL.=50.00 の場合 →

X	3000.000
Y	4000.000
DL.	50.00

(15) 試料番号(文字)

試料番号を記入する。当該調査で実施したボーリング孔から試料採取を行った場合、「ボーリング交換用データ L 様式:試料採取」の試料番号と一致させる。

例:試料番号 T001 →

T001

(16) 試料連番(整数)

試料連番を記入する。試料連番は地点ごとに採取された試料に対して割振られた連番であり、詳細は本要領「第 6 編 土質試験及び地盤調査編」の「ファイルの命名規則」を参照する。

例: 試料連番 1 の場合 →

		1
--	--	---

(17) 試料採取情報(コード)

試料採取情報を表 2-5 から選択し、コードで記入する。

例: 乱れの少ない試料の場合 →

0

表 2-5 試料採取情報コード

コード	試料採取情報
0	乱れの少ない試料
1	乱した試料

(18) 上端深度・下端深度(実数)

試験で使用了したサンプル・供試体の上端深度、下端深度を記入する。単位は GL.-m とし、小数点以下 2 桁(cm)まで記入する。

例:GL.-10.00~10.84m →

	1	0	.	0	0		1	0	.	8	4
--	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---

(19) 試料の状態(コード)

採取した試料を開封したときの状態をを表 2-6 から選択し、コードで記入する。なお、「異

常なし」は、供試体が均質でクラックの介在等の異常のないことを示す。

例：試料の状態 異常なし →

1

表 2-6 供試体状態コード

1	異常なし
2	貝殻混じり(大きな貝殻)
3	クラック
4	礫混じり
5	砂混じり
6	シルト混じり
7	軟弱な部分あり
8	木片、有機物混じり

(20) 湿潤密度・乾燥密度(実数)

試料の湿潤密度、乾燥密度を記入する。単位は g/cm^3 とする。

例：湿潤密度 $1.953 \text{ g}/\text{cm}^3$ 、乾燥密度 $1.652 \text{ g}/\text{cm}^3$ →

1 . 9 5 3 1 . 6 5 2

(21) 土粒子の密度(実数)

試料の土粒子の密度を記入する。単位は g/cm^3 とする。

例：土粒子の密度 $2.672 \text{ g}/\text{cm}^3$ →

2 . 6 7 2

(22) 自然含水比(実数)

試料の自然含水比を記入する。単位は%とする。

例：自然含水比 18.2 % →

 1 8 . 2

(23) 間隙比(実数)

試料の間隙比を記入する。

例：間隙比 0.617 →

 0 . 6 1 7

(24) 飽和度(実数)

試料の飽和度を記入する。単位は%とする。

例：飽和度 78.8% →

 7 8 . 8

(25) 粒度組成(実数)

石、礫、砂、シルト、粘土分の組成比を記入する。単位は%とする。

例：シルト分 73% →

 7 3 . 0

(26) 最大粒径(実数)

試料の最大粒径を記入する。単位は mm とする。

例:最大粒径 19.0mm →

	1	9	.	0	0	0
--	---	---	---	---	---	---

(27) 均等係数(実数)

試料の均等係数を記入する。

なお、算定不能の場合は-1 を記入する。

例:均等係数 11.0 →

	1	1	.	0
--	---	---	---	---

(28) 50%粒径 (実数)

試料の 50%粒径を記入する。単位は mm とする。

例:50%粒径 7.2mm →

		7	.	2	0	0
--	--	---	---	---	---	---

(29) 10%粒径 (実数)

試料の 10%粒径を記入する。単位は mm とする。

例:10%粒径 0.031mm →

		0	.	0	3	1
--	--	---	---	---	---	---

(30) 液性限界・塑性限界(実数)

試料の液性限界、塑性限界をそれぞれ記入する。単位は%とする。

なお、NP の場合は-1 を記入する。

例:液性限界 48.3 %、塑性限界 27.6 % →

		4	8	.	3			2	7	.	6
--	--	---	---	---	---	--	--	---	---	---	---

(31) 塑性指数(実数)

塑性指数を記入する。

なお、NP の場合は-1 を記入する。

例:塑性指数 20.7 →

		2	0	.	7
--	--	---	---	---	---

(32) 地盤材料の分類(文字)

地盤材料の分類名、分類記号を記入する。

例:細粒分質礫質砂(SFG)

地盤材料の分類名 →

細粒分質礫質砂

分類記号 → SFG

SFG

(33) 圧密試験方法(コード・文字)

圧密試験の方法を「第 6 編 土質試験及び地盤調査編」の試験コード一覧表から選択し、

コードで記入する。なお、一覧表にない基準・規格外の試験の場合はコード「99999」を記入し、試験名称について文字記入を行う。圧密試験結果については、供試体が複数個の場合、それぞれの値を繰り返し記入する。

例：土の段階载荷による圧密試験 →

A	1	2	1	7	
---	---	---	---	---	--

例：土の定ひずみ速度载荷による圧密試験 →

A	1	2	2	7	
---	---	---	---	---	--

例：規格外：浸透圧密試験 →

9	9	9	9	9	浸透圧密試験
---	---	---	---	---	--------

(34) 圧縮指数(実数)

圧縮指数を記入する。

例：圧縮指数 0.395 →

0	.	3	9	5
---	---	---	---	---

(35) 圧密降伏応力(実数)

圧密降伏応力を記入する。単位は kN/m^2 とする。

例：圧密降伏応力 110 kN/m^2 →

	1	1	0	.	0
--	---	---	---	---	---

(36) 体積圧縮係数(実数)

体積圧縮係数を記入する。単位は kN/m^2 とする。

例：体積圧縮係数 $7.34 \times 10^{-4} \text{ m}^2/\text{kN}$ →

7	.	3	4	E	-	0	4
---	---	---	---	---	---	---	---

(37) 圧密係数(整数)

圧密係数を整数を記入する。単位は cm^2/d とする。

例：圧密係数 465 cm^2/d →

		4	6	5
--	--	---	---	---

(38) 圧力範囲(文字)

体積圧縮係数、圧密係数を算定した時の圧力範囲を記入する。

例：圧力範囲 $p=111 \text{ kN/m}^2$ →

p=111 kN/m^2

(39) 一軸圧縮強さ(実数)

一軸圧縮強さを記入する。単位は kN/m^2 とする。

一軸圧縮試験結果については、供試体数が複数個の場合、それぞれの値を繰り返し記入する。

例：一軸圧縮強さ 75.2 kN/m^2 →

		7	5	.	2
--	--	---	---	---	---

(40) 破壊ひずみ(実数)

破壊ひずみを記入する。単位は%とする。

例:破壊ひずみ 3.2% →

		3	.	2
--	--	---	---	---

(41) せん断試験条件(コード・文字)

せん断試験条件を「第 6 章 土質試験及び地盤調査編」の試験コード一覧表から選択し、コードで記入する。一覧表にない基準・規格外の試験の場合はコード「99999」を記入し、試験名称について文字で記入する。せん断試験結果については、供試体数が複数個の場合、それぞれの値を繰り返し記入する。

例:土の非圧密非排水(UU)三軸圧縮試験 →

B	0	5	2	1	
---	---	---	---	---	--

例:土の圧密排水(CD)三軸圧縮試験 →

B	0	5	2	4	
---	---	---	---	---	--

(42) せん断強さ(全応力、有効応力)(実数)

せん断強さを記入する。単位は kN/m^2 とする。

例:せん断強さ 34.3 kN/m^2 →

		3	4	.	3
--	--	---	---	---	---

(43) せん断抵抗角(全応力、有効応力)(実数)

せん断抵抗角を記入する。単位は度とする。

例:せん断抵抗角 37.40 度 →

3	7	.	4	0
---	---	---	---	---

(44) 締固め試験方法(文字)

締固め試験の試験方法を記入する。

例: E-c →

E-c

(45) 最大乾燥密度(実数)

試料の最大乾燥密度を記入する。単位は g/cm^3 とする。

例:最大乾燥密度 1.950 g/cm^3 →

1	.	9	5	0
---	---	---	---	---

(46) 最適含水比(実数)

試料の最適含水比を記入する。単位は%とする。

例:最適含水比 20.5% →

	2	0	.	5
--	---	---	---	---

(47) CBR 試験方法(文字)

CBR 試験の試験方法を記入する。

例:締固めた土 →

締固めた土

(48) CBR 試験突固め回数(整数)

CBR 試験の突固め回数を記入する。単位は回/層とする。

例: 突固め回数 92 回/層 →

9	2
---	---

(49) 膨張比(実数)

CBR 試験の吸水膨張試験の膨張比を記入する。単位は%とする。

例: 膨張比-0.14% →

-	0	.	1	4	0
---	---	---	---	---	---

(50) 貫入試験後含水比(実数)

CBR 試験の貫入試験後含水比を記入する。単位は%とする。

例: 貫入試験後含水比 12.7% →

	1	2	.	7
--	---	---	---	---

(51) 平均 CBR(実数)

平均 CBR を記入する。単位は%とする。

例: 平均 CBR51.6% →

	5	1	.	6
--	---	---	---	---

(52) 締固め度(実数)

修正 CBR 試験の締固め度を記入する。単位は%とする。

例: 締固め度 90% →

9	0
---	---

(53) 修正 CBR(実数)

締固め度に対応した修正 CBR を記入する。単位は%とする。

例: 修正 CBR 30.3% →

	3	0	.	3
--	---	---	---	---

(54) コーン指数試験突固め回数(整数)

締固めた土のコーン指数試験の突固め回数を記入する。単位は回/層とする。

例: 突固め回数 92 回/層 →

9	2
---	---

(55) コーン指数(実数)

コーン指数を記入する。単位は kN/m² とする。

例: コーン指数 4.2 →

			4	.	2
--	--	--	---	---	---

(56) 透水試験方法(コード・文字)

透水試験の方法を「第 6 編 土質試験及び地盤調査編」の試験コード一覧表から選択し、コードで記入する。一覧表にない基準・規格外の試験の場合はコード「99999」を記入し、試験名称を文字で記入する。

例:土の透水試験 →

A	1	2	1	8	
---	---	---	---	---	--

(57) 透水係数 (実数)

透水係数を記入する。単位は m/s とする。

例:透水係数 1.50×10^{-5} m/s →

1	.	5	0	E	-	0	5
---	---	---	---	---	---	---	---

(58) その他(文字)

その他の試験値を記入する場合は、項目名(単位を含む)と試験値を記入する。

例:鋭敏比 St 8.5 →

鋭敏比 St	8.5
--------	-----

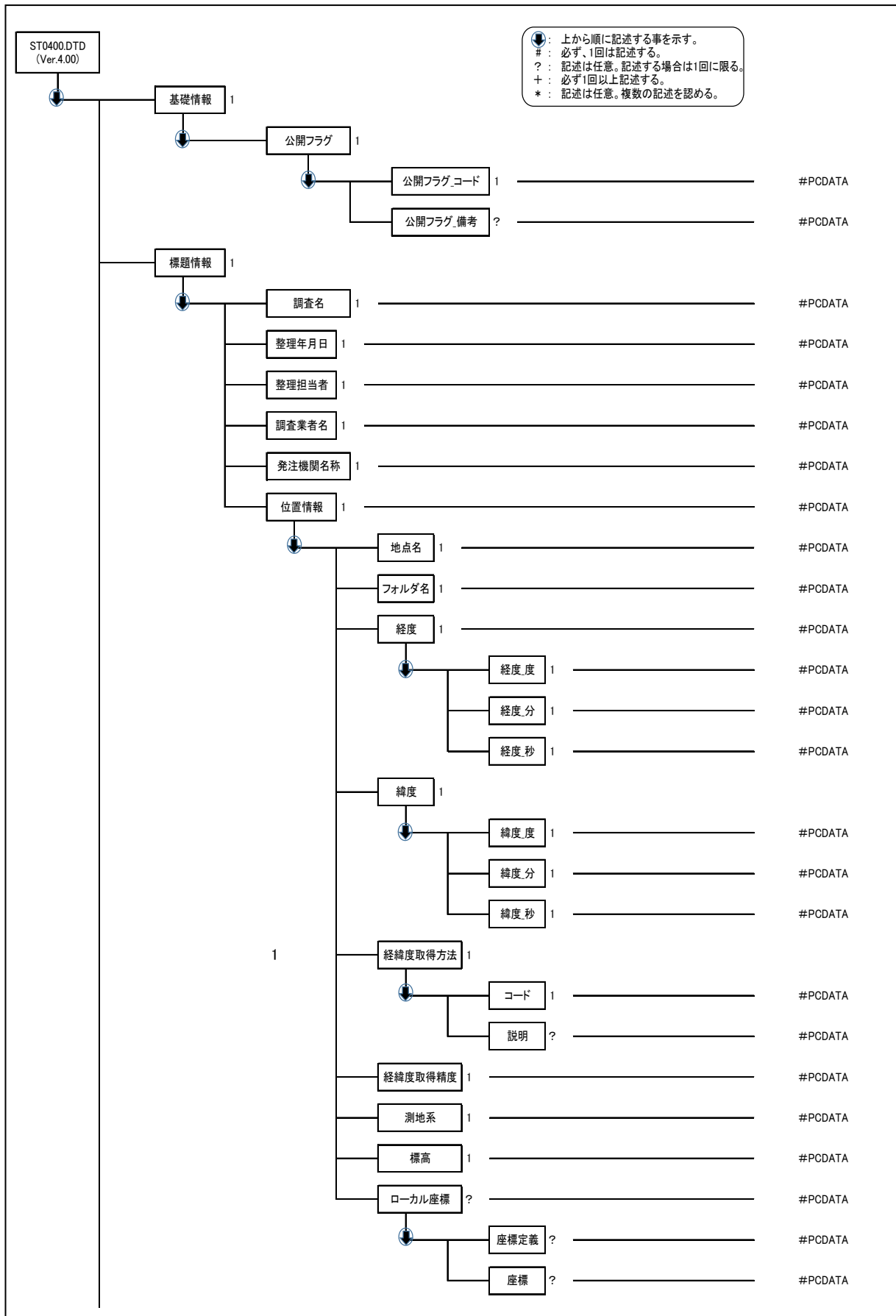
(59) コメント(文字)

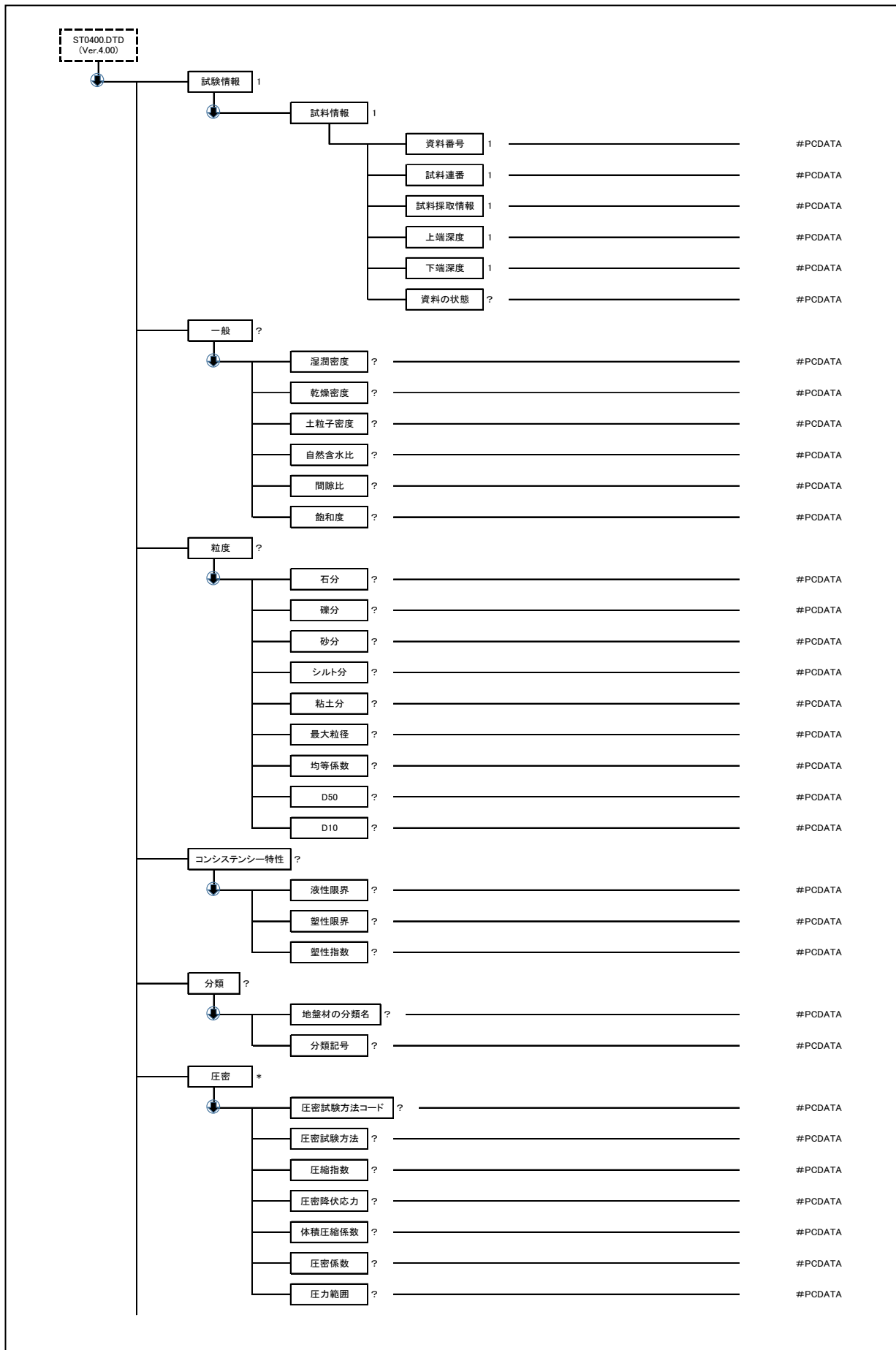
特記事項等について任意に記入する。

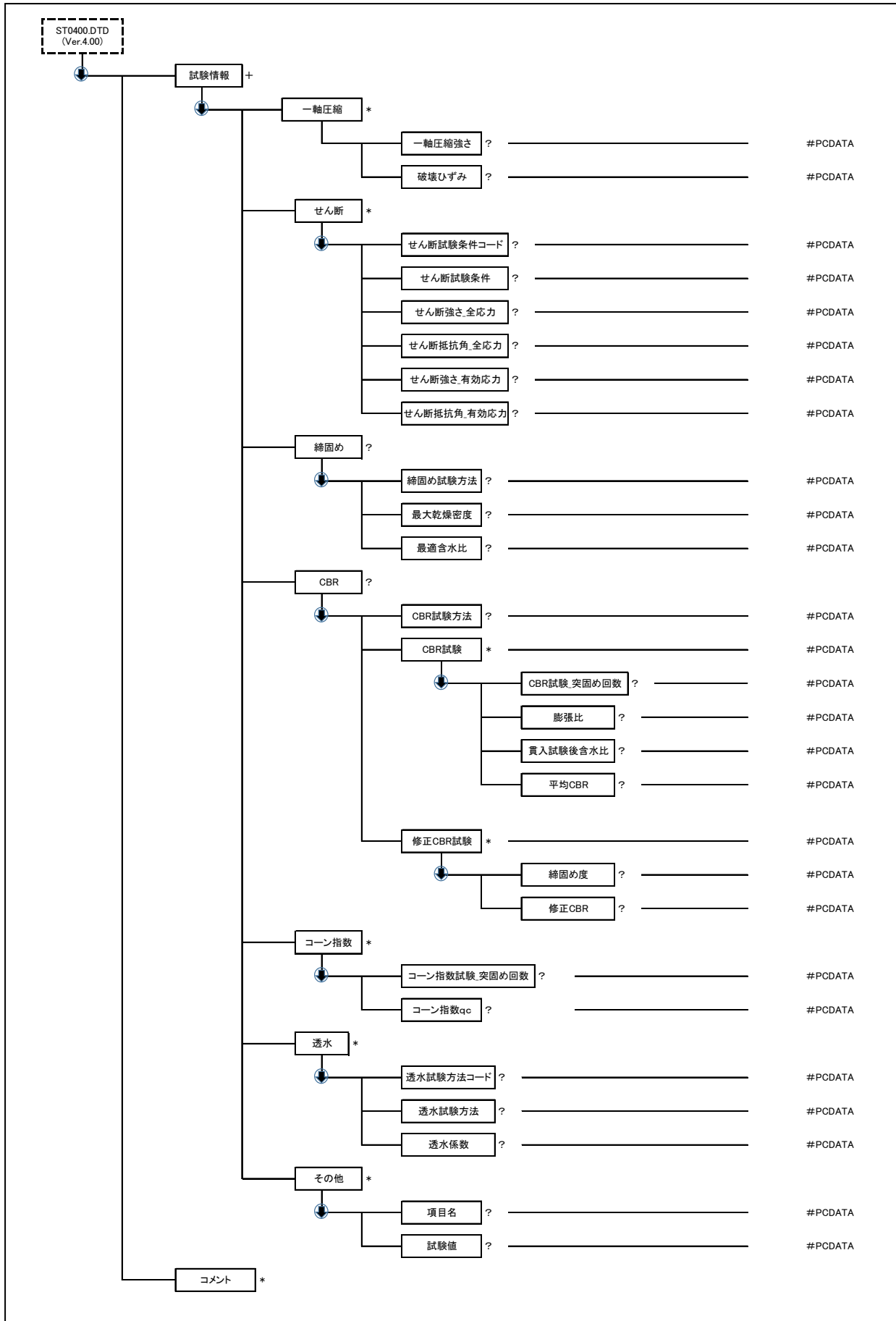
例:CD 三軸試験は、自然状態の湿潤密度に締固めた供試体で実施した。 →

CD 三軸試験は、自然状態の湿潤密度に締固めた供試体で実施した。

3 土質試験結果一覧表データの構造図







4 土質試験結果一覧表データの定義内容

土質試験結果一覧表データのDTD(ST0400.DTD)を次に示す。なお、DTD ファイルは、農林水産省のホームページから入手できる。

(農林水産省HP →

http://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/nouhin_youryou/index.html)

```

<!--*****-->
<!-- ST0400.DTD DTD バージョン4.00 -->
<!-- 2019/4/1 以下を変更したために、DTD のバージョンをver3.00→ver4.00 へ -->
<!-- 公開フラグを追加 -->
<!-- 測地系のコードを変更 -->
<!-- 透水係数の単位を変更 -->
<!--*****-->
<!ELEMENT SOILTESTLIST (基礎情報, 標題情報, 試験情報+, コメント*)>
<!ATTLIST SOILTESTLIST DTD_version CDATA #FIXED "4.00">

<!--*****-->
<!--          基礎情報          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 基礎情報 (公開フラグ)>
  <!ELEMENT 公開フラグ (公開フラグ_コード, 公開フラグ_備考?)>
  <!ELEMENT 公開フラグ_コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 公開フラグ_備考 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          標題情報          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 標題情報 (調査名, 整理年月日, 整理担当者, 調査業者名, 発注機関名称, 位置
  情報)>
  <!ELEMENT 調査名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 整理年月日 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 整理担当者 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 調査業者名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 発注機関名称 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 位置情報 (地点名, フォルダ名, 経度, 緯度, 経緯度取得方法, 経緯度読取精
  度, 測地系, 標高, ローカル座標*)>
  <!ELEMENT 地点名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT フォルダ名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 経度 (経度_度, 経度_分, 経度_秒)>
  <!ELEMENT 経度_度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 経度_分 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 経度_秒 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 緯度 (緯度_度, 緯度_分, 緯度_秒)>
  <!ELEMENT 緯度_度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 緯度_分 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 緯度_秒 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 経緯度取得方法 (経緯度取得方法_コード, 経緯度取得方法_説明?)>
  <!ELEMENT 経緯度取得方法_コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 経緯度取得方法_説明 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 経緯度読取精度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 測地系 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 標高 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ローカル座標 (座標定義?, 座標?)>
  <!ELEMENT 座標定義 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 座標 (#PCDATA)>

```



```

<!--*****-->
<!--      試験情報      -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 試験情報 (試料情報, 一般?, 粒度?, コンシステンシー特性?, 分類?, 圧密*, 一
軸圧縮*, せん断*, 締固め?, CBR?, コーン指数*, 透水*, その他*)>
<!ELEMENT 試料情報 (試料番号, 試料連番, 試料採取情報, 上端深度, 下端深度, 試料の
状態?)>
<!ELEMENT 試料番号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試料連番 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試料採取情報 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 上端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 下端深度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 試料の状態 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 一般 (湿潤密度?, 乾燥密度?, 土粒子密度?, 自然含水比?, 間隙比?, 飽和度?)>
<!ELEMENT 湿潤密度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 乾燥密度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 土粒子密度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 自然含水比 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 間隙比 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 飽和度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 粒度 (石分?, 礫分?, 砂分?, シルト分?, 粘土分?, 最大粒径?, 均等係数?, D50?,
D10?)>
<!ELEMENT 石分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 礫分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 砂分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT シルト分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 粘土分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 最大粒径 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 均等係数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT D50 (#PCDATA)>
<!ELEMENT D10 (#PCDATA)>
<!ELEMENT コンシステンシー特性 (液性限界?, 塑性限界?, 塑性指数?)>
<!ELEMENT 液性限界 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 塑性限界 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 塑性指数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 分類 (地盤材料の分類名?, 分類記号?)>
<!ELEMENT 地盤材料の分類名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 分類記号 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 圧密 (圧密試験方法コード?, 圧密試験方法?, 圧縮指数?, 圧密降伏応力?, 体
積圧縮係数?, 圧密係数?, 圧力範囲?)>
<!ELEMENT 圧密試験方法コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT 圧密試験方法 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 圧縮指数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 圧密降伏応力 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 体積圧縮係数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 圧密係数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 圧力範囲 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 一軸圧縮 (一軸圧縮強さ*, 破壊ひずみ*)>
<!ELEMENT 一軸圧縮強さ (#PCDATA)>
<!ELEMENT 破壊ひずみ (#PCDATA)>
<!ELEMENT せん断 (せん断試験条件コード?, せん断試験条件?, せん断強さ_全応力?, せん
断抵抗角_全応力?, せん断強さ_有効応力?, せん断抵抗角_有効応力?)>
<!ELEMENT せん断試験条件コード (#PCDATA)>
<!ELEMENT せん断試験条件 (#PCDATA)>
<!ELEMENT せん断強さ_全応力 (#PCDATA)>
<!ELEMENT せん断抵抗角_全応力 (#PCDATA)>
<!ELEMENT せん断強さ_有効応力 (#PCDATA)>
<!ELEMENT せん断抵抗角_有効応力 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 締固め (締固め試験方法?, 最大乾燥密度?, 最適含水比?)>
<!ELEMENT 締固め試験方法 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 最大乾燥密度 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 最適含水比 (#PCDATA)>
<!ELEMENT CBR (CBR 試験方法?, CBR 試験*, 修正 CBR 試験*)>

```

```

<!ELEMENT CBR 試験方法 (#PCDATA)>
<!ELEMENT CBR 試験 (CBR 試験_突固め回数?, 膨張比?, 貫入試験後含水比?, 平均 CBR?)>
  <!ELEMENT CBR 試験_突固め回数 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 膨張比 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 貫入試験後含水比 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 平均 CBR (#PCDATA)>
<!ELEMENT 修正 CBR 試験 (締固め度?, 修正 CBR?)>
  <!ELEMENT 締固め度 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 修正 CBR (#PCDATA)>
<!ELEMENT コーン指数 (コーン指数試験_突固め回数?, コーン指数 qc?)>
  <!ELEMENT コーン指数試験_突固め回数 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT コーン指数 qc (#PCDATA)>
<!ELEMENT 透水 (透水試験方法コード?, 透水試験方法?, 透水係数?)>
  <!ELEMENT 透水試験方法コード (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 透水試験方法 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 透水係数 (#PCDATA)>
<!ELEMENT その他 (項目名?, 試験値?)>
  <!ELEMENT 項目名 (#PCDATA)>
  <!ELEMENT 試験値 (#PCDATA)>
<!--*****-->
<!--          コメント          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT コメント (#PCDATA)>

```

5 土質試験結果一覧表データの記入例

土質試験結果一覧表データ (STBnnnn.XML) の記入例を次に示す。なお、サンプル XML ファイルは、発注者側から提供を受けることができる。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE SOILTESTLIST SYSTEM "ST0400.DTD">
<SOILTESTLIST DTD_version="4.00">

<基礎情報>
  <公開フラグ>
    <公開フラグ_コード>1</公開フラグ_コード>
    <公開フラグ_備考/>
  </公開フラグ>
</基礎情報>
<標題情報>
  <調査名>〇〇幹線用水路地質調査業務</調査名>
  <整理年月日>2019-05-28</整理年月日>
  <整理担当者>〇〇 〇〇</整理担当者>
  <調査業者名>株式会社〇〇コンサルタンツ</調査業者名>
  <発注機関名称>〇〇農政局〇〇〇〇〇〇事業所</発注機関名称>
</標題情報>
<試験情報>
  <位置情報>
    <地点名>B-1</地点名>
    <フォルダ名>BRG0001</フォルダ名>
    <経度>
      <経度_度>135</経度_度>
      <経度_分>35</経度_分>
      <経度_秒>58.2000</経度_秒>
    </経度>
    <緯度>
      <緯度_度>34</緯度_度>
      <緯度_分>59</緯度_分>
      <緯度_秒>53.2000</緯度_秒>
    </緯度>
    <経緯度取得方法>
      <経緯度取得方法_コード>02</経緯度取得方法_コード>
      <経緯度取得方法_説明>1,000分の1地形図を0.1mm単位で読み取り</経緯度取得方法_説明>
    </経緯度取得方法>
    <経緯度読取精度>1</経緯度読取精度>
    <測地系>02</測地系>
    <標高>0.23</標高>
    <ローカル座標>
      <座標定義>X</座標定義>
      <座標>3000.000</座標>
    </ローカル座標>
    <ローカル座標>
      <座標定義>Y</座標定義>
      <座標>-2000.000</座標>
    </ローカル座標>
    <ローカル座標>
      <座標定義>D.L.</座標定義>
      <座標>50.00</座標>
    </ローカル座標>
  </位置情報>
</試験情報>
</標題情報>
</基礎情報>
```

<試験情報>
 <試験番号>L001</試験番号>
 <試験連番>1</試験連番>
 <試験採取情報>0</試験採取情報>
 <上端深度>3.00</上端深度>
 <下端深度>3.70</下端深度>
 <試験の状態>1</試験の状態>
 </試験情報>
 <一般>
 <湿潤密度>1.953</湿潤密度>
 <乾燥密度>1.652</乾燥密度>
 <土粒子密度>2.672</土粒子密度>
 <自然含水比>18.2</自然含水比>
 <間隙比>0.167</間隙比>
 <飽和度>78.8</飽和度>
 </一般>
 <粒度>
 <石分>0.0</石分>
 <礫分>28.5</礫分>
 <砂分>45.9</砂分>
 <シルト分>20.4</シルト分>
 <粘土分>5.2</粘土分>
 <最大粒径>19.000</最大粒径>
 <均等係数>59.0</均等係数>
 <D50>0.47</D50>
 <D10>0.031</D10>
 </粒度>
 <分類>
 <地盤材料の分類名>細粒分質礫質砂</地盤材料の分類名>
 <分類記号>SFG</分類記号>
 </分類>
 <せん断>
 <せん断試験条件コード>B0524</せん断試験条件コード>
 <せん断試験条件></せん断試験条件>
 <せん断強さ_全応力>36.9</せん断強さ_全応力>
 <せん断抵抗角_全応力>37.4</せん断抵抗角_全応力>
 <せん断強さ_有効応力></せん断強さ_有効応力>
 <せん断抵抗角_有効応力></せん断抵抗角_有効応力>
 </せん断>
 <せん断>
 <せん断試験条件コード>B0521</せん断試験条件コード>
 <せん断試験条件></せん断試験条件>
 <せん断強さ_全応力>51.3</せん断強さ_全応力>
 <せん断抵抗角_全応力>1.5</せん断抵抗角_全応力>
 <せん断強さ_有効応力></せん断強さ_有効応力>
 <せん断抵抗角_有効応力></せん断抵抗角_有効応力>
 </せん断>
 <透水>
 <透水試験方法コード>A1218</透水試験方法コード>
 <透水試験方法></透水試験方法>
 <透水係数>1.50E-05</透水係数>
 </透水>
 <その他>
 <項目名>鋭敏比 St</項目名>
 <試験値>8.5</試験値>
 </その他>
 </試験情報>
 <試験情報>
 <試験情報>
 <試験番号>L002</試験番号>
 <試験連番>2</試験連番>
 <試験採取情報>0</試験採取情報>

<上端深度>9.00</上端深度>
<下端深度>9.80</下端深度>
<試料の状態>1</試料の状態>
</試料情報>
<一般>
<湿潤密度>1.771</湿潤密度>
<乾燥密度>1.241</乾燥密度>
<土粒子密度>2.687</土粒子密度>
<自然含水比>42.7</自然含水比>
<間隙比>1.165</間隙比>
<飽和度>98.5</飽和度>
</一般>
<粒度>
<石分>0.0</石分>
<礫分>0.0</礫分>
<砂分>24.3</砂分>
<シルト分>56.6</シルト分>
<粘土分>19.2</粘土分>
<最大粒径>0.850</最大粒径>
<均等係数></均等係数>
</粒度>
<コンシステンシー特性>
<液性限界>48.3</液性限界>
<塑性限界>27.6</塑性限界>
<塑性指数>20.7</塑性指数>
</コンシステンシー特性>
<分類>
<地盤材料の分類名>砂質粘土</地盤材料の分類名>
<分類記号>CLS</分類記号>
</分類>
<圧密>
<圧密試験方法コード>A1217</圧密試験方法コード>
<圧密試験方法></圧密試験方法>
<圧縮指数>0.395</圧縮指数>
<圧密降伏応力>110</圧密降伏応力>
<体積圧縮係数></体積圧縮係数>
<圧密係数></圧密係数>
<圧力範囲></圧力範囲>
</圧密>
<圧密>
<圧密試験方法コード>A1217</圧密試験方法コード>
<圧密試験方法></圧密試験方法>
<圧縮指数>0.595</圧縮指数>
<圧密降伏応力>152</圧密降伏応力>
<体積圧縮係数></体積圧縮係数>
<圧密係数></圧密係数>
<圧力範囲></圧力範囲>
</圧密>
<一軸圧縮>
<一軸圧縮強さ>75.2</一軸圧縮強さ>
<破壊ひずみ>3.2</破壊ひずみ>
</一軸圧縮>
<せん断>
<せん断試験条件コード>B0521</せん断試験条件コード>
<せん断試験条件></せん断試験条件>
<せん断強さ_全応力>40.2</せん断強さ_全応力>
<せん断抵抗角_全応力>5.40</せん断抵抗角_全応力>
<せん断強さ_有効応力></せん断強さ_有効応力>
<せん断抵抗角_有効応力></せん断抵抗角_有効応力>
</せん断>
</試験情報>

<試験情報>

<試料情報>
 <試料番号>D001</試料番号>
 <試料連番>3</試料連番>
 <試料採取情報>1</試料採取情報>
 <上端深度>0.50</上端深度>
 <下端深度>1.00</下端深度>
 </試料情報>
 <粒度>
 <石分>25.0</石分>
 <礫分>73.0</礫分>
 <砂分>19.0</砂分>
 <シルト分>6.0</シルト分>
 <粘土分>2.0</粘土分>
 <最大粒径>300</最大粒径>
 <均等係数>127</均等係数>
 </粒度>
 <分類>
 <地盤材料の分類名>細粒分まじり砂質礫</地盤材料の分類名>
 <分類記号>GS-F</分類記号>
 </分類>
 <締固め>
 <締固め試験方法>E-c</締固め試験方法>
 <最大乾燥密度>1.950</最大乾燥密度>
 <最適含水比>20.5</最適含水比>
 </締固め>
 <CBR>
 <CBR 試験方法>締固めた土</CBR 試験方法>
 <CBR 試験>
 <CBR 試験_突固め回数>92</CBR 試験_突固め回数>
 <膨張比>-0.14</膨張比>
 <貫入試験後含水比>12.7</貫入試験後含水比>
 <平均 CBR>51.6</平均 CBR>
 </CBR 試験>
 <CBR 試験>
 <CBR 試験_突固め回数>42</CBR 試験_突固め回数>
 <膨張比>-0.14</膨張比>
 <貫入試験後含水比>12.7</貫入試験後含水比>
 <平均 CBR>43.4</平均 CBR>
 </CBR 試験>
 <CBR 試験>
 <CBR 試験_突固め回数>17</CBR 試験_突固め回数>
 <膨張比>-0.02</膨張比>
 <貫入試験後含水比>12.2</貫入試験後含水比>
 <平均 CBR>29.2</平均 CBR>
 </CBR 試験>
 <修正 CBR 試験>
 <締固め度>90</締固め度>
 <修正 CBR>30.3</修正 CBR>
 </修正 CBR 試験>
 <修正 CBR 試験>
 <締固め度>95</締固め度>
 <修正 CBR>42.2</修正 CBR>
 </修正 CBR 試験>
 </CBR>
 <コーン指数>
 <コーン指数試験_突固め回数>10</コーン指数試験_突固め回数>
 <コーン指数 qc>4.2</コーン指数 qc>
 </コーン指数>
 <コーン指数>
 <コーン指数試験_突固め回数>25</コーン指数試験_突固め回数>
 <コーン指数 qc>2.9</コーン指数 qc>
 </コーン指数>
 <コーン指数>

```
<コーン指数試験_突固め回数>55</コーン指数試験_突固め回数>  
<コーン指数 qc>2.6</コーン指数 qc>  
</コーン指数>  
<コーン指数  
<コーン指数試験_突固め回数>90</コーン指数試験_突固め回数>  
<コーン指数 qc>2.1</コーン指数 qc>  
</コーン指数>  
</試験情報>  
  
<コメント></コメント>  
</SOILTESTLIST>
```